

2013 年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人文科学研究所
研究所・センター長名	小関 素明

I. 研究成果の概要（公開項目）

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 年)および 2013 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2013 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、別紙「研究所重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出してください。

1. 研究会活動の概要

人文科学研究所は現在、1. 史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究、2. 現在社会と人間を解読するために哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索、3. グローバル化の問題点の検証とそれへの実践的な対応の模索、を共同研究の柱に掲げている。その目標のもとに 5 つの研究所重点プロジェクト研究、①「近代日本思想史—戦後憲法論議の再検討—」(代表:小関素明)、②「暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)、③「間文化現象学」(代表:谷徹)、④「グローバル化とアジアの観光」(代表:藤巻正己)、⑤「グローバル化と公共性」(代表:堀雅晴)と、8 つの研究助成プロジェクト⑥「大学の自治の制度構想」(代表:中島茂樹)、⑦「戦後沖縄の基地・都市」(代表:加藤政洋)、⑧「人文科学方法論」(代表:筒井淳也)⑨「比較ポピュリズム」(代表:加藤雅俊)、⑩「京都戦後史学史」(代表:田中聡)、⑪「グローバル市民社会」(代表:足立研幾)、⑫「批判的実在論」(代表:佐藤春吉)、⑬「身体と映像の関係」(代表:北野啓介)を設置し、研究活動を行っている。

2. 資料収集・調査活動

これに関しては①が3冊目の資料集の公刊に向けて、国立国会図書館や新聞資料ライブラリー、各県立図書館で1960年代の地方新聞所収の憲法関連論説の収集に取り組んだほか、⑦が沖縄市役所総務部総務課市史編纂担当へのヒアリング、⑩が三品彰英旧蔵史料・奥丹後地方教職員組合資料・上羽絵惣資料などの整理、目録作成、『祇園祭』関連資料(京都文化博物館所蔵)の調査を進めた。

3. 学際研究への取り組み

ほとんどの研究会が通常の研究会の開催の中に人的な学際的交流を展開しているが、特記すべきは②が福島原発事故や近・現代哲学関係の講演会と国際的学術交流、③が海外からの研究者を招請しての間文化現象学講演会(4回)、間文化現象学ワークショップ(2回)を開催、④がマレーシアの外国人労働者に関する学際的総合的研究、タイと日本におけるボランティアツーリズム、観光と政治関係の公開セミナー・シンポジウムの開催、⑤が国際シンポジウム「Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies」(中央大学、韓国)での報告を行ったことである。この他に助成プログラムでも所属メンバーによって国際学術会議での報告(⑦)やワークショップの開催(⑪)が行われた。

4. 研究成果の発信と社会貢献

これについてはほとんどすべての研究会が学内外の学術雑誌への寄稿あるいは国内・国際シンポジウム、公開セミナーの企画・開催、学術図書刊行準備、関連書籍の翻訳に精力的に取り組んでおり、多極的な研究成果発信がなされつつある。

5. 若手研究者の支援

研究所重点プログラムに関しては、人数の差はあるが、すべての研究会が若手研究者を構成メンバーに加え、資料収集活動の援助・指導、報告や成果執筆・翻訳の機会の提供や博士論文執筆指導・研究資金の分与を行い、学外の若手研究者とのネットワーク形成を支援するなど、その育成に力を入れている。また若手研究者に研究会の企画を委ねるなど、研究者として自立するに際して必要な経験の機会を与えたプロジェクトも存在する(②)。これら研究会所属の若手研究者のなかから博士論文を完成し、本学専門研究員(旧学内 PD)、他大学のリサーチアシスタント(任期制)に採用される若手研究者が現れたことは、これら研究会の若手研究者支援が実をあげつつある証左と言えよう。

助成プログラムにおいても、若手研究者に学内外での口頭報告や、学術雑誌への成果執筆の機会を提供し、効果的な若手研究者育成に功を奏しつつある研究会も存在する。

II. 研究業績（公開項目）

本欄には、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2014年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	谷徹	Husserl's Ideen "Reading and Rereading the Ideen in Japan"	単著	2013年5月	Springer, Dordrecht Heidelberg New York London	Tani Toru	pp19-33
2	ウェルズ 恵子	魂をゆさぶる歌に出会う：アメリカ黒人文化入門	単著	2014年2月	岩波書店		
3	Yoshinori Hayashi	The Future of Bioethics	共著	2014年3月	Oxford University Press	Akira Akabayashi ed.	pp.735-749, 766-773
4	Kayoko Ishii	<i>Dynamics of Marriage Migration in Asia</i>	編著	2014年1月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	Nobue Suzuki, Eva F. Nisa, Akiko Watanabe, Saihanjuna, Satoko Takeda, Misaki Iwai, Andrio A. Muktiwibowo	p. 5-13
5	大野哲也	終わらない旅の中を生きる～旅の快快乐への誘いとその可能性	共著	2013年4月	未来回路製作所『未来回路5.0』	蔵前仁一ほか16名	pp. 52～61
6	堀雅晴	新自由主義大学改革	共著	2014年2月	東信堂	細井克彦・石井拓児・光本滋	pp. 4-24.
7	足立研幾	グローバル・ガバナンス論	共著	2014年2月	法律文化社	吉川元、六鹿茂夫、望月康恵、首藤もと子	pp. 234-247
8	田中宏	EU 統合の深化とユーロ危機・拡大	共著	2013年3月	勁草書房	久保広正・吉井昌彦	
9	松下冽	共鳴するガヴァナンス空間の現実と課題：「人間の安全保障」から考える	共著	2013年10月	晃洋書房	山根健至	pp. 1-22, pp. 86-207
10	山下範久	世界史の中の資本主義：エネルギー、食料、国家はどうなるか	共著	2013年6月	東洋経済新報社	水野和夫、川島博之	pp. 177-224

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	小関素明	近代日本における「革命の凍結」と「革命の解凍」－日本近代公権力の特質と反体制構想の水脈－	単著	2014年3月	立命館大学人文科学研究紀要 103		pp.3-45	有
2	小関素明	『恣意なき独裁』の余塵－近代日本の公権力と立憲君主制－	単著	2013年12月	『近代日本の思想空間と公共性』（韓国漢陽大学校）		pp.1-9	無
3	中島茂樹	「自民改憲草案は、憲法をどうしようとしているのか？」	単著	2014年1月	京都憲法会議監修『憲法「改正」の論点－憲法原理からの問い直し』法律文化社		pp.1-11	
4	赤澤史朗	歴史の中に内在的可能性を探って	単著	2013年3月	立命館法学 345・346		pp.949-969	有
5	林尚之	戦後日本の主権国家と世界連邦政府的国連中心主義	単著	2014年3月	立命館文学 637		pp.24-38	有
6	佐藤太久磨	「世界共同体」の論理、二つの文脈－明治期政治思想の一断面－	単著	2013年	次世代人文社会研究 9		pp.115-131	有
7	佐藤太久磨	原子力時代における二つの憧憬－主権と世界政府をめぐって－	単著	2013年	史創 3		pp.32-49	有

8	穎原善徳	万国郵便連合条約と郵便条例の抵触をめぐる問題」	単著	2014年3月	立命館大学人文科学研究所紀要103		pp.45-70	有
9	城下賢一	「日本」鎮目真人	共著	2013年12月	近藤正基編『比較福祉国家 理論・計量・各国事例』ミネルヴァ書房	北山俊哉	pp.336-360	
10	城下賢一	PrimeMinistersDiscourse in Japan's Reforms since the 1980s:	共著	2014年1月	Gender and Welfare state in East Asia: Confucianism or Gender Equality?, Palgrave, Jan. 2014,	落合恵美子	pp.152-180.	有
11	谷 徹	Husserl's Ideen "Reading and Rereading the Ideen in Japan "	単著	2013年5月	Springer, Dordrecht Heidelberg New York London		pp19-33	
12	谷 徹	文明・文化と「一」	単著	2013年5月	『文明と哲学』日独文化研究所・こぶし書房(4号)		pp.86-109	
13	谷 徹	酒井潔・佐々木能章・長網啓典編『ライブニッツ読本』	単著	2013年5月	『週刊読書人』			
14	谷 徹	Fenomenologoziranje kulture (translated by Robert Simonic)	単著	2014年3月	Phainomena(XXII/86-87 November 2013号)		pp.61-71	
15	谷 徹	文明・文化と「二」	単著	2014年3月	『文明と哲学』(6号)		pp.31-45	
16	谷 徹	「もの」と「かたり」の物語り	共著	2014年3月	『文明と哲学』(6号)	野家啓一	pp.61-100	
17	ウエルズ 恵子	Folktales を読む ---物語の力	単著	2014年2月	立命館言語文化研究(25巻3号)		pp.23-40	無
18	鳶野克己	あいさつと超越性 ―祈りとしてのあいさつのために―	共著	2014年3月	『<マナーと作法>の教育人間学』、東信堂	矢野智司編	pp. 66-97	有
19	鳶野克己	生きていることの不思議に目覚める ―私は生まれなくてもよかった!?	共著	2014年3月	『上小教育』第57号	小泉上田教育会編	pp. 123-170	
20	伊勢俊彦	存在することと表出されること--ヒュームの社会哲学と観念説の限界--	単著	2013年11月	『哲学論叢』40号		pp.12-23	有
21	亀井大輔	デリダの自己触発論の射程―ハイデガー、アンリとの対比をつうじて	単著	2013年5月	日本ミシェル・アンリ哲学会、『ミシェル・アンリ研究』第3号		pp.105-123	有
22	AOYAGI Masafumi	Phenomenological Antinomy and Holistic Idea ― Adorno's Husserl-Studies and Influences from Cornelius	単著	2013年9月	INVESTIGACIONES FENOMENOLÓGICAS Monográfico 4/II		PP.23-38	有
23	佐藤勇一	言葉と沈黙―フランク・ファンをめぐって	単著	2013年5月	『文明と哲学』第5号		pp.161-174	有
24	佐藤勇一	人類学を通る還元之道―フッサールとレヴィ=ブリュール、メルロ=ポンティとレヴィ=ストロース―	単著	2013年6月	『多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究 研究成果報告書(2011-2012年度)』		pp.155-169	無
25	Yuichi SATO	The Way of the Reduction via Anthropology: Husserl and Lévy-Bruhl, Merleau-Ponty and Lévi-Strauss	単著	2014年1月	Bulletin d'analyse phénoménologique X 1		pp.1-18	有
26	黒岡佳征	ハイデガーにおける大学改革論の構想と展開―哲学と諸学との連動―	単著	2014年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要 No. 103』、立命館大学人文科学研究所		pp. 141-165	有
27	黒岡佳征	哲学と共同性―ハイデガーの本来的共存存在解釈への一視座	単著	2014年3月	『文明と哲学 第6号』、日独文化研究所、こぶし書房		pp. 146	
28	横田祐美子	Le non-savoir et l'inconnu―バタイユ「内的体験」における認識と視覚を通して	共著	2013年3月	立命館哲学 24巻		pp. 55-73	有
29	横田祐美子	存在そのものの暴力性―バタイユにおける実存と道徳	共著	2014年2月	立命館大学人文科学研究所紀要103号		pp. 167-181	有

30	雨森直也	ダークツーリズムに垣間見える「紅いイデオロギー」—2008年汶川大地震の事例—	単著	2013年11月	立命館大学人文科学研究紀要102	なし	pp.6~91	無
31	石井香世子	"Minority Migrant Networks Scattered Across Thailand, Malaysia and Countries Further Away: Research Scope and Plan"	単著	2013年10月	<i>Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities</i> , vol.6	なし	pp.3-7	無
32	大野哲也	持続可能な地域おこしにむけて —「観光」と「スポーツ」をつなぐ—	単著	2013年12月	桐蔭横浜大学『桐蔭論叢第29号』	なし	pp.21~29	無
33	羽谷沙織	カンボジアにおけるダークツーリズムに関する一考察—観光資源として「虐殺」はどのように表象されているか—	単著	2013年11月	立命館大学人文科学研究紀要102	なし	pp.37~67	無
34	Fujimaki Masami	Orang Asli in Peninsular Malaysia: Population, Spatial Distribution and Socio-Economic Condition	共著	2013年10月	<i>Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities</i> , vol.6	Tarmi ji Masron, Norhasimah Ismail	pp.75~116	無
35	Fujimaki Masami	Population Growth and Urbanisation in Peninsular Malaysia from 1911 to 2000	共著	2013年10月	<i>Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities</i> , vol.6	Tarmi ji Masron, Usman Yaakub	pp.117~127	無
36	村瀬智	ベンガルのパウルのライフヒストリーの研究研究(1)	単著	2013年3月	大手前大学論集、第13号		pp.135-167	無
37	村瀬智	みやこと災害の文明論	共著	2013年11月	比較文明学会、比較文明、第29号	原田憲一、中牧弘允、鎌田東二ほか	pp.61-120	有
38	村瀬智	ベンガルのパウルのライフヒストリーの研究(2)	単著	2014年3月	大手前大学論集、第14号		pp.229-266	無
39	薬師寺浩之	2004年津波被災後のタイ南部・アンダマン海沿岸ビーチリゾートにおける幽霊をめぐる混乱と観光復興	単著	2013年11月	立命館大学人文科学研究紀要No.102		pp.93~128	無
40	山本勇次	元グルカ兵探訪紀行	単著	2013年11月	立命館大学人文科学研究紀要102	なし	pp.175~206	無
41	Yukio Yotsumoto (3rd author)	Competitiveness as an Indicator of Sustainable Development of Tourism: Applying Destination Competitiveness Indicators to Ethiopia	共著	2014年3月	Journal of Sustainable Development Studies 6(1)	Tegegne Anteneh Wondowossen, Nobukazu Nagagoshi, Rob H.G Jongman, Assefa Zerihun Dawit	pp.71~95	有
42	四本幸夫	観光まちづくり研究に対する権力概念を中心とした社会学的批判	単著	2014年3月	観光学評論 2(1)		pp.67~82	有
43	堀雅晴	ガバナンス論研究の現状と課題:「スポーツのグッドガバナンス」に向けて	単著	2014年2月	体育・スポーツ経営学会、体育・スポーツ経営学 第27巻1号		pp.5-21	有
44	中谷義和	グローバル化とネオリベリズム(1)(2)	単著	2013年10月	『立命館法学』第349号、第350号		pp.296-356, pp.371-420	無
45	西口清勝	TPPとRCEP—比較研究と今後の日本の進路に関する一考察	単著	2014年3月	『立命館経済学』第62巻第5・6号		pp.238-249	無
46	円城由美子	イラクにおける女性政策と女性の社会的地位の変遷—フセイン政権崩壊前後の政策に見られる連続性を中心に—	単著	2014年3月	大阪女学院短期大学紀 43号		pp.51-69	有

47	足立研幾	新たな規範の伝播失敗—規範起業家と規範守護者の相互作用から	単著	2014年3月	『国際政治』 176号		pp. 1-13	有
48	Kenki Adach	Countering Norm Creation: Tug-of-War between Norm Entrepreneurs and Norm Protectors on Access to Essential Medicines	単著	2014年4月	The Ritsumeikan Journal of International Studies Vol. 26, No. 1		pp. 1-13	無
49	田中宏	ハンガリーにおける日系企業の活動とその特徴	単著	2014年3月	日本大学経済学部産業経済研究所産業経営プロジェクト報告書『連携研究』第37巻第2号		pp. 75-107	無
50	田中宏	EUのマクロ・リージョン戦略—ドナウ川流域のケース	単著	2013年10月	『立命館国際地域研究』38巻		pp. 1-24	無
51	山下範久	資本主義と民主主義	単著	2013年10月	行人社、『比較文明』第29号		pp. 43-60	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	小関素明	『恣意なき独裁』の余塵—近代日本の公権力と立憲君主制—	2013年12月13日	国際学術シンポジウム「近現代日本の思想空間と公共性」(於韓国漢陽大学校)	
2	小関素明	憲法改正問題と歴史学	2013年6月23日	日本史研究会・史創研究会合同シンポジウム「立憲制の危機と歴史学」(於機関誌会館、京都市)	
3	中島茂樹	中教審型大学構造改革と大学ガバナンス	2014年2月20日	立命館大学人文科学研究所主催シンポジウム。統一テーマ:「国家・社会と大学構造改革—中教審大学分科会の改革方針をめぐって」(於立命館大学)	
4	赤澤史朗	藤田省三の戦後天皇制論	2013年8月3日	同志社大学人文科学研究所・戦後思想研究会(於同志社大学)	
5	佐藤太久磨	近代社会の陥穽と可能性	2013年6月23日	日本史研究会・史創研究会合同シンポジウム「立憲制の危機と歴史学」(於機関誌会館、京都市)	
6	佐藤太久磨	「大東亜共栄圏」の変成、「戦後日本」の生成—戦後日本形成史論—	2014年2月13日	韓国漢陽大学校・立命館大学人文科学研究所共催「東アジア次世代日本研究学術会議プログラム」(於立命館大学)	
7	林尚之	非常時のなかの立憲主義の転回と平和国家	2013年12月1日	史創研究会・日本史の方法研究会共催シンポジウム「立憲主義の危機とは何か」	
8	猪原透	大正期の刑法学における「社会」—牧野英一を中心に	2013年6月30日	大阪歴史学会大会(於甲南大学)	
9	猪原透	近代日本における犯罪学の文脈—悪性から精神病質へ	2013年12月8日	立命館史学会大会(於立命館大学)	
10	猪原透	進化論と近代日本の犯罪学	2014年2月13日	韓国漢陽大学校・立命館大学人文科学研究所共催「東アジア次世代日本研究学術会議プログラム」(於立命館大学)	
11	梶居佳広	朝鮮戦争・日韓関係に関する日本の新聞論説—幾つかの地方紙を手がかりに—	2013年12月21日	朝鮮史研究会関西西部会12月例会(於大阪)	
12	梶居佳広	朝鮮戦争・日韓関係(1950~1953年)に関する日本の新聞論説—幾つかの全国紙・地方紙を手がかりに—	2014年1月12日	青丘文庫第291回朝鮮近現代史研究会報告(於神戸)	
13	城下賢一	岸政権の公共事業の展開と選挙	2013年5月	日本選挙学会(於京都大学)	
14	城下賢一	PrimeMinistersDiscourse onGender since the 1980s	2014年1月	European Association for Japanese Studies, Japan Conference(於京都大学)	落合恵美子氏との共同報告
15	城下賢一	JapanesePrimeMinisterDiscourse on Family after the World War II	2013年11月	東北アジア文化学会(於、韓国大邱市・啓明大学校)	落合恵美子氏との共同報告
16	城下賢一	Social Democracy in Japan: Why did/do Japanese social democratic parties fail in the Post-War period?	2014年2月	Nordic AssOciation for theStudy of Contemporary Japanese Society in Helsinki,	

17	谷 徹	Utsushi, Shirushi and Mediation -- the philosophy of Sakabe Megumi --	2013年10月	SPEP 52 (52nd Meeting of the Society for Phenomenology and Exisistential Philosophy)	
18	ウェルズ恵子	いまにも生きる民話の力:「ウサギとカメ」イソップ、日本、アメリカ黒人版	2013年11月	立命館大学土曜講座	
19	ウェルズ恵子	マイケル・ジャクソンの歌詞を読む	2013年11月	日本比較生活文化学会第29回全国大会	
20	鷲野克己	マナーにおけるもう一つの超越性—一生の出来事としての認知症をめぐるマナー論的断片(2)—	2014年2月	マナー研究会2014春例会(科研費)、京都大学	
21	鷲野克己	概念への愛/概念からの愛—教育人間学の方法をめぐる議論に寄せて—	2013年11月	教育人間学会第7回大会、教育人間学会、立命館大学	
22	鷲野克己	<生きていることの不思議>に目覚める—私は生まれてこなくてもよかった!?!—	2013年8月	第5回菅平夏季大学、上小教育会、上田市中央公民館	
23	鷲野克己	分ければ一人で運べる荷物をなぜ二人で運ぶのか—教育における個と集団を捉え直す—	2013年8月	素心会(木村素衛教育学研究会)、上田市かつら旅館	
24	鷲野克己	彼方の笑い/笑いの彼方	2013年5月	日本笑い学会関東支部第199回研究会、台東区民会館	
25	横田祐美子	知られざるものを知られざるままに—バタイユにおける非-知、思考の運動—	2014年3月	日仏哲学会、京都大学	
26	横田祐美子	バタイユ思想に倫理はあるのか	2014年3月	日本国際教養学会、神奈川・慶応義塾大学日吉キャンパス	
27	横田祐美子	存在そのものの暴力性—バタイユにおける実存と道徳	2013年10月	暴力から人間存在の回復研究会、立命館大学	
28	Toshihiko Ise	Generality and Partiality from a Humean Point of View	2013年8月	The 23rd World Congress of Philosophy	
29	加國尚志	「私は私に触れる」—マルブランシュ現象学:アンリとメルロ=ポンティの解釈を中心に	2013年9月	日仏哲学会2013年秋季研究大会シンポジウム	
30	加國尚志	メルロ=ポンティとフロイト1954-1955年講義「受動性」を中心に	2013年9月	日本メルロ=ポンティ・サークル第19回大会・シンポジウム「制度化と受動性」	
31	林芳紀	予防接種の倫理的問題—医療従事者に対するインフルエンザワクチン接種の義務化をめぐる議論を中心に	2014年3月	SPH フォーラム2014	
32	林芳紀	医学研究者の追加的ケアの責務:治療/研究の二分法を超越する研究者の責務の基礎付けの試み	2013年12月	第34回日本臨床薬理学会総会	
33	林芳紀	新型インフルエンザ対策に伴う医療資源の配分の問題—パンデミックワクチンの優先順位	2013年9月	京都生命倫理研究会	
34	Daisuke Kamei	La démocratie et la question de l'autre chez Derrida et Rancière	2014年3月	Collège International de Philosophie, journée d'étude: La question de la démocratie: Derrida/Rancière	
35	亀井大輔	制度化の問題をめぐるメルロ=ポンティとデリダ	2013年9月	日本メルロ=ポンティ・サークル第19回大会・シンポジウム「制度化と受動性」	
36	小林琢自	Development of Otaka's Phenomenological Theory of the State.	2014年3月	間文化現象学プロジェクトワークショップ“The Lifeworld and Sciences”	
37	田邊正俊	ニーチェの「責任」観をめぐる一考察	2013年11月	関西倫理学会第66回大会	
38	池田裕輔	“Transzendentaler Schein und phänomenologische Paradoxien”	2013年7月	間文化現象学プロジェクト新世代ワークショップ	
39	池田裕輔	世界化と人間的主体性の逆説について	2013年11月	日本現象学会	
40	松田智裕	自己疎外の二つの位相—デリダの主観性理論に関する一視点—	2013年11月	関西倫理学会2013年度大会	
41	松田智裕	開かれていることの際限のなさ—デリダのフッサール解釈における「開放性」の問題—	2014年3月	日仏哲学会2014年春季研究大会	

42	雨森直也	2008年四川汶川大地震におけるダークツーリズムの解釈—1999年台湾集集大地震におけるダークツーリズムとの比較から—	2013年7月	観光学術学会、奈良県立大学	
43	井澤友美	ポストスハルト期インドネシア・バリにおける観光開発—民主化・分権化のインパクト—	2014年2月	人文研主催公開シンポジウム(観光学術学会との共催)、立命館大学衣笠キャンパス	高谷 紀夫(広島大学)、ティプスング・エ・バヤナ(台湾師範大学)
44	石井香世子	Migration Networks among “Chinese” Migrant Workers from Thailand to Malaysia	2013年10月	第86回 日本社会学会大会於：慶應義塾大学	朱雀夏子ほか
45	大野哲也	地域おこしの持続可能性についての一考察	2013年7月	観光学術学会 第2回大会	
46	大野哲也	バックパッキングとメディア	2013年10月	日本社会学会 第86回大会	
47	大野哲也	グローバル化社会における異文化体験の可能性	2013年11月	日本ボランティア学習学会	
48	薬師寺浩之	マレーシア・ジョージタウンのバックパッカーゲストハウスにおける外国人労働者に関する研究(ポスター発表)	2013年11月	2013年人文地理学会大会, 大阪市立大学	
49	四本幸夫	観光まちづくり研究に関する社会学的批判	2013年7月	観光学術学会第2回大会(奈良県立大学)	
50	Yukio Yotsumoto (1 st author)	Ethnic majority's strategies for starting tourism business in ethnic minority areas: the case of Lao Chai village in Northern Vietnam	2013年11月	Asia Pacific Conference (Ritsumeikan Asia Pacific University)	Tatsuya Kanda, Ngu Huu Nguyen, Van Huu Nguyen, Thi Lan Huong Nguyen, Yuzuru Isoda
51	藤巻正己	東南アジアにおける遺産観光とポリティクス	2013年11月23日	2013年アメリカス学会シンポジウム「創られた観光イメージ古代文明と開発戦略—」	関雄二(国立民族博物館)、井上昭洋(天理大学)、桑原久男(天理大学教授)、小林貴徳(同志社大学)、
52	Yoshikazu NAKATANI	“The Changing Contours of “Stateness” and Prospects for Democracy under Neoliberal Globalization”	2014. 2. 21	Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies, Chung-Ang University, Korea	
53	Junri SAKURAI, Takeshi SHINODA	“The Changing Labour Market under the Neo-liberal Reform in Japan: Toward Sustainable Economic and Social Development”	2014. 2. 21	Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies, Chung-Ang University, Korea	
54	Emi TAMAKI	“Transnational Ties and Adaptation of Asian Immigrants in the United States”	2014. 2. 21	Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies, Chung-Ang University, Korea	
55	Ryotaro KATSURA	“A Study of the Aging and Social Welfare in Asia: Singapore and Vietnam”	2014. 2. 21	Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies, Chung-Ang University, Korea	
56	円城由美子	「フセイン政権後のイラクにおける女性の人身売買」に関する報告	2013. 6	大阪女学院国際共生研究所主催 第30回 平和・人権研究会、大阪女学院大学	
57	Kenki Adachi	“When Norms Fail to Diffuse: Interaction between Norm Entrepreneurs and Norm Protectors,”	2014. 3. 26	International Studies Association 55th Annual Convention, Toronto,	
58	Kenki Adachi (Invited Speaker)	“Strategies of Norm Anti-preneurs on Anti-Personnel Landmines and Patents on Medicine,”	2014. 3. 25	International Studies Association sponsored Pre-workshop, Norm Anti-preneurs’: Enhancing Scholarly Understanding of Resistance to Global Normative and Legal Change, Sheraton Centre Hotel, Toronto,	
59	田中宏	「EUのマクロ地域戦略—ドナウ流域のケース」	2013. 3. 16-17	第17回進化経済学会(中央大学)	
60	Hiroshi Tanaka	Emerging Multinationals in Hungary: Motivation of Inward Entry and Outward Expansion Cases—Through a Comparative Lens of Chinese Emerging	2013. 4. 25	The Pacific Rim Economics: “Institutions, Transition and Development” in Seoul National University, Faculty of Economics,	

		Multinationals Abroad,			
--	--	------------------------	--	--	--

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回研究会 「寛克彦と日本体操」	衣笠キャンパス 第3研究会室	2013年6月	10名	
2	第2回研究会 徳川慶喜と「公議」—支持基盤と「尊王」 の関係性を軸に—	衣笠キャンパス 第3研究会室	2013年7月	10名	
3	秋季集中研究会	衣笠キャンパス 第3研究会室	2013年10月	15名	
4	アジア次世代日本研究学会学術会議	衣笠キャンパス 清心館548号教室	2014年2月	50名	漢陽大学校BK21Plus 日本研究特性化チーム
5	春季集中研究会	衣笠キャンパス 第3研究会室	2014年3月	15名	
6	アラン＝マルク・リュウ氏講演会	衣笠キャンパス 末川記念会館	2013年6月	45名	
7	研究会「存在そのものの暴力性」	衣笠キャンパス 第3研究会室	2013年10月	20名	
8	ジェローム・レーブル氏講演会	衣笠キャンパス 末川記念会館	2013年10月	40名	
9	間文化現象学・新世代ワークショップ(ネ イサン・フィリップ氏、池田裕輔氏)	衣笠キャンパス 敬学館237教室	2013年7月	20名	
10	間文化現象学ワークショップ“The Lifeworld and Sciences” (キム・テヒ氏、 小林琢自氏)	衣笠キャンパス 末川記念会館	2014年3月	15名	
11	間文化現象学講演会(ユリア・ヤンセン氏)	衣笠キャンパス 末川記念会館	2013年5月	30名	
12	間文化現象学講演会(ダン・ザハヴィ氏)	衣笠キャンパス 末川記念会館	2013年5月	60名	
13	間文化現象学講演会(カレル・ノヴォトニ ー氏)	衣笠キャンパス 第2研究会室	2013年7月	30名	
14	間文化現象学講演会(ディディエ・フラン ク氏)	衣笠キャンパス 末川記念会館	2013年12月	40名	
15	公開セミナー「マレーシアの農業開発地域 における外国人労働者に関する学際的総 合的研究」	キャンパスプラザ 京都	2013年6月	25名	科研基盤(B)「多民族国家マレーシアの外国 人労働者に関する学際的総合的研究」
16	公開セミナー「Volunteer Tourism in Thailand and Japan」	キャンパスプラザ 京都	2013年9月	30名	
17	公開シンポジウム 「観光とポリティックス」	衣笠キャンパス	2014年2月	50名	観光学術学会
18	研究会「ダークツーリズム」	衣笠キャンパス 第2研究会室	2013年12月	12名	
19	Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies	中央大学(韓国)	2014年2月	100名	中央大学(韓国)、暨南大学(中国)
20	第1回 定例研究会 「ネオリベラリズムの系譜」中谷義和	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年6月	8名	国際地域研究所「途上国研究会」共催
21	第2回 定例研究会 「[中国的] 新自由主義とミニマム公共サ ービス」毛桂榮(明治学院大学法学部教授)	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年9月	6名	
22	第3回 定例研究会 「グローバル化とネオ・リベラリズム」中 谷義和	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年12月	8名	
23	第4回 定例研究会 「アジアの高齢化問題と社会福祉的課題 に関する一考察」桂 良太郎	立命館大学衣笠キ ャンパス	2014年1月	7名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	小関素明	書評: 林尚之著『主権不在の帝国憲法と法外なるものをめ ぐる歴史学』(有志舎 2012年)	史創4、2014年1月、66-74頁。	

2	猪原透	書評：林尚之著『主権不在の帝国 憲法と法外なるものをめぐる歴史学』（有志舎 2012年）	立命館史学 34、2013年、129～134頁。	
3	足立研幾	「NGOの観点から見た軍縮・不拡散問題」	『軍縮・不拡散問題講座』於日本国際問題研究所	2013年9月19日
4	谷徹	（講演）フッサール「イデー」を読む	立命館大学 土曜講座	2013年9月
5	北尾宏之	（講演）カント「道徳形而上学の基礎づけ」を読む	立命館大学 土曜講座	2013年9月
6	谷徹	（書評）酒井潔・佐々木能章・長綱啓典編『ライブニッツ読本』	『週刊読書人』	2013年5月
7	亀井大輔・横田祐美子	（翻訳）駆け足—ジャック・デリダにおける脱構築と政治の速度	『人文学報』首都大学東京人文科学研究科 469,	2014年3月
8	神田大輔・佐藤勇一	（翻訳）レヴィ=ストロースとメルロ=ポンティ—自然と文化の区別から生の精神へ、そして両者の間文化的な含意	『多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究 研究成果報告書（2011-2012年度）』	2013年6月
9	小林琢自	（翻訳）純粋法学の将来の課題（後半）	立命館大学人文科学研究科、『立命館大学人文科学研究科紀要』、第104号	2014年3月
11	円城由美子	（翻訳）共鳴するガヴァナンス空間の現実と課題 —「人間の安全保障」から考える—	晃洋書房 松下洙・山根健至編 14章(pp. 248-259)	2013年10月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	赤澤史朗	1960年代の憲法論議—地方紙を中心として	基盤研究 (C)	2012年4月	2015年3月	代表
2	梶居 佳広	朝鮮戦争と日本の新聞論説に関する研究	若手研究 (B)	2011年4月	2014年3月	代表
3	城下 賢一	戦後日本政党政治における社会民主主義の位置—民社党の挑戦 1960～1971—	若手研究 (B)	2011年4月	2014年3月	代表
4	藤巻正己	多民族国家マレーシアの外国人労働者に関する学際的総合的研究	基盤研究 (B)	2012年4月	2015年3月	代表
5	加藤政洋	米軍統治下の沖縄における奄美諸島出身者の社会地理	若手研究(B)	2011年4月	2014年3月	代表
6	石井香世子	『アジアにおける結婚・離婚移住ネットワークの多方向性と還流性に関する実証研究』	基盤研究 (A)	2011年4月	2014年3月	代表
7	足立研幾	グローバル規範の生成・変容・消滅メカニズム」	若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	石井香世子	『東南アジアにおける少数民族の出稼ぎ・ビジネス ネットワークに関する実証研究』	アジア中島平和財団 アジア地域重点学術研究助成	2013年4月	2014年3月	代表
2	石井香世子	『弱者救済における地域観光の有効性に関する日タイ比較研究』	京都大学東南アジア研究所 東南アジア研究の国際共同研究拠点 平成25年度共同研究	2013年4月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								

以上。